

平成29年度ヘルスプランぎふ21推進会議 議事概要

1 日 時 平成29年12月13日(水) 13時30～15時30分

2 場 所 岐阜県医師会館 3階小会議室

3 出席者 11名

	団体名	委 員		
		職名	氏 名	備 考
1	岐阜大学	名誉教授	岩田 弘敏	
2	岐阜県医師会	会長	小林 博	代理 堀部 廉
3	岐阜県立看護大学	教授	会田 敬志	
4	朝日大学	教授	磯崎 篤則	
5	食育推進会議	委員長	道家 晶子	欠席
6	地域職域連携推進部会	部会長	上村 博幸	
7	岐阜大学	教授	春日 晃章	
8	岐阜県地域女性団体協議会	副会長	三輪 やよい	欠席
9	岐阜県国民健康保険団体連合会	常務理事	近田 和彦	
10	岐阜労働局労働基準部	労働基準部長	唄 繁樹	
11	岐阜県学校保健会	副会長	谷口 邦彦	
12	市町村保健活動推進協議会	保健師部会長	高木 千春	欠席
13	岐阜県保健所長会	会長	竹腰 知治	
14	岐阜県精神保健福祉センター	所長	丹羽 伸也	

4 事務局 5人

1	健康福祉部	健康福祉部長	森岡 久尚	
2	保健医療課	課長	稲葉 静代	
3		保健企画監	山田 しのぶ	
4		係長	柘植 利伸	
5		技術主査	二村 真紀	

## ■報告事項

- (1) 第3次ヘルスプランぎふ21計画策定スケジュールについて  
事務局より報告
- (2) 地域・職域連携推進部会結果について  
地域・職域連携推進部会長より報告
- (3) 厚生労働省「健康日本21（第2次）」中間評価報告骨子案について

## ■議 事

- (1) 第3次ヘルスプランぎふ21（案）について
- (2) その他

### <各領域について>

#### 糖尿病

- ・「糖尿病」の目標指標の設定について、患者・高齢者人口が増加している中で評価や目標をどう出すか難しい。

#### 食生活・栄養

- ・野菜摂取量の増加に向け、孤食など家庭での食事形態を改善する必要がある。食育推進基本計画とともに取組みを進める。

#### 身体活動・運動

- ・「身体活動・運動」の子どもの重点目標指標について。子どもの運動の目安は、国・世界とも「1日60分以上」。ヘルスプラン目標指標案の「1週間に60分以上」とともに2つの目標を置いてはどうか。学校保健の授業を強化することも重要。
- ・20代女性の運動率が低いため、今後、策を打てるとよい。

#### 休養・こころの健康

- ・目標値「ストレスチェック制度を実施する事業所の増加」は90%とする。
- ・自殺者は経済対策により減少してきた。若者については、背景として発達障害等も指摘されており、学校の中で耐ストレス能力を習得する仕組みが必要。また、早めに不調に気づくようセルフチェックにも取り組む。
- ・学校現場では、学習指導要領に則り創意工夫をしているが、学校の教育だけでは難しい面がある。こころの健康は大きな課題と受け止めているので、様々な関係者と連携を取りながら、充実できるように努力が必要。

#### アルコール

- ・アルコール対策として、次期計画から「アルコール健康問題対策基本法」の計画が入る。実効的な取組みとして、普及・啓発を実施していく。

#### たばこ

- ・目標値「受動喫煙防止対策に取り組む事業所の増加」は100%とする。

- ・加熱式たばこの取扱いについては、国の方針を待ち対応する。

#### 歯科・口腔の健康について

- ・用語「歯科健診」「歯科検診」の使用方法を整理すること。

#### 健康を支える社会環境の整備について

- ・「個人へのインセンティブ」という用語が分かりづらい。表現を変えること。

#### <健康格差（健康指標）について>

##### 都道府県データ

- ・資料「第3次ヘルスプランぎふ21（都道府県指標の順位）」について、各指標の値を矢印でつなぐと、数値に因果関係があるように見える。タイトルと内容の不一致もあるため修正が必要。
- ・歯周疾患が重点指標であるが、全国調査がなく都道府県比較ができていない。今後、データが出たら掲載する。また、「むし歯は減ってきているが歯周病は増えている」ことを示す必要がある。

##### 市町村データ

- ・死亡率の低い市町村の受診率や生活が把握できれば、よい働きかけにつながるのではないか。しかし、現在は生活習慣（例えば野菜摂取量等）の市町村データを算出できる調査がない。
- ・市町村合併により、同一市町村内であっても地域により食生活や生活形態は異なる。市町村データの比較には慎重な対応が必要。
- ・保健所では地域診断を行い、市町村内の地域特性に応じた施策を行っている。

#### <全体について>

- ・「取組みを検討」という表現から、「検討」を削除すること。
- ・関係者に「医療保険者」が明記された。今後、保険者協議会の有効活用が必要。
- ・高齢者の健康づくりに「地域ケアシステム」の記載をしてほしい。かかりつけ医が取り組もうとしている。
- ・労働局で策定中の「第13次労働災害防止推進計画」において、労働者の健康の確保、こころの問題について目標を立てる。ヘルスプランとの整合を取れるようにしていく。
- ・資料「ライフステージに応じた目標指標」については、子どもから高齢者までそれぞれのようなことを目的に関係者が取り組むかが分かりやすく、計画全体を俯瞰できる。計画の概要版等で使用してはどうか。

#### <圏域の健康課題と取組みについて>

- ・圏域計画が分かりづらいため、工夫が必要。